

埼玉県立新座高等学校

高三

戸草内真桜

今から一年ほど前、自分が旅に出て、汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からしきりに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出た。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行った。気が付くと、手先や脇のあたりに毛を生じているらしい。

33  
新座

埼玉県立新座高等学校

高三

本橋紗希

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からしきりに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出した。無我夢中で駆けて行く中に、いつか途は山林に入り、しかし、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行った。気が付くと、手先や脇のあたりに毛を生じているらしい。

33  
新座

埼玉県立新座高等学校

高三

門脇 瑠夏

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からしきりに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出た。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行つた。気が付くと、手先や脇のあたりに毛を生じているらしい。

埼玉県立新座高等学校

高三

佐藤 杏

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からしきりに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出た。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行つた。気が付くと、手先や脇のあたりに毛を生じているらしい。

埼玉県立新座高等学校

高三

鈴木心音

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からしきりに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出た。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行つた。気が付くと、手先や脇のあたりに毛を生じているらしい。

33  
新座

埼玉県立新座柳瀬高等学校

高三

鈴木里瑠

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からしきりに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出した。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行つた。気が付くと、手先や脇のあたりに毛を生じているらしい。

33  
新座

高三

辻 玲音

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からさきに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出した。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行つた。気が付くと、手先や脇のあたりに毛を生じているらしい。

33  
新座

高三

山崎 優依

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡してから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中からさきに自分を招く。覚えず、自分は声を追うて走り出た。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行つた。気が付くと、手先や脇のあたりに毛を生じているらしい。

33  
新座

高三

内藤若菜

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡一てから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中から一きりに自分が招く。覚えず、自分は声を追うて走り出た。無我夢中で駆けて行く中に、いつしか途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走っていた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行つた。気が付くと、手先や脳のあたりに毛を生じているらしい。

33  
新座

高三

上瀧妃香

今から一年ほど前、自分が旅に出て汝水のほとりに泊った夜のこと、一睡一てから、ふと眼を覚ますと、戸外で誰かが我が名を呼んでいる。声に応じて外へ出てみると、声は闇の中から一きりに自分が招く。覚えず、自分は声を追うて走り出た。無我夢中で駆けて行く中に、いつ一か途は山林に入り、しかも、知らぬ間に自分は左右の手で地を攫んで走つた。何か身体中に力が充ち満ちたような感じで、軽々と岩石を飛び越えて行つた。気が付くと、手先や脳のあたりに毛を生じているらしい。